

Rotary



Rotary Opens Opportunities



ロータリーは 機会の扉を開く



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会 長 渡 邊 有 規

幹 事 田 原 聖

会報・雑誌委員長 伊藤 繁幸

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ

例会日 毎週火曜日(12:30~)

事務局 宇都宮市東宿郷3-2-5-803 TEL.028-638-5125 FAX.028-638-5128

通算2888号 2020年10月20日(晴れ) 第14回例会 会員数120名 列席多数



点 鐘 渡邊 有規会長
司 会 副SAA 宇野会員

- ◇ロータリーソング コロナ感染防止のため割愛
- ◇本日のランチ 持ち帰り弁当



ビジター紹介

倉井会長エレクト

- ◇来訪ロータリアン

1名(1クラブ) 累計26,576名
卓話講師

RI第2550地区ロータリー米山記念奨学会委員会
委員長 長 正英様(宇都宮陽北RC)

会長挨拶

渡邊(有) 会長

皆様、こんにちは。10月は米山月間、先週は、ソク ピセット君、テット チャンソティア君の大変に楽しい話を聞かせていただき、楽器も弾いていただきました。

本日は、ロータリー米山記念奨学会委員会の委員長、長 正英様にお越しをいただいております。ロータリー米山記念奨学会部門では、カウンセラーに我が宇都宮東ロータリーの羽石光臣パストガバナーが、そして、学友委員会委員長を小林正明会員が務められております。以前には辻会員が長い間委員長をされており、米山部門は東ロータリークラブにとって深い関係性があります。

長委員長は、実は、幼稚園、小、中、高校の同級生で、家も500メートルほどしか離れていない近所で、小さい頃からよく遊んでおりました。小学生の頃、長外科医院でもある長君の家を新築した折、その基礎土台の周りを遊びまわっておりました。それが、私の建築を志すきっかけとなったのです。また、ちょうど30歳の頃、私が独立しようか迷っていた時に、「有規が自分で始まったら、うちの住宅と歯科医院を設計してもらいたい。早く独立しろ。」と、背中を強く押しいただいたのも、長君でした。ですから、



幹事報告

田原幹事

- ◇10月23日(金) 地区大会記念ゴルフについて

会場はホウライカントリークラブ。来場時はマスク着用、体温測定にご協力を。スタート30分前までに受付を行い、プレー終了後、各自スコア提出を。大浴場の使用が可能。精算時に参加証の受け取りを。※成績表と景品は10月25日地区大会本会議で預かって参ります。

- ◇今週25日(日) 地区大会本会議について

大会当日の様子はYouTubeにて生中継されます。配信は当日のみ。出席扱いにつきましてはYouTubeで生中継をご覧くださいことにより本大会出席となります。ご不明な点がございましたら幹事までご連絡下さい。

- ◇来週10月27日例会は夜間例会。



委員会報告

関副委員長

- ◇スマイルボックス委員会

小林正明会員

地区米山記念奨学会委員長 長 正英様、本日卓話よろしくお願ひします。



卓話

地区ロータリー米山記念奨学会卓話

「ロータリー米山記念奨学会について」

第2550地区ロータリー米山記念奨学会委員会
委員長 長 正英様

皆さん、こんにちは。米山地区の委員長を仰せ

つかって3年目、委員会に関わって7年目になります。その前に3名ほど奨学生のカウンセラーをやらせていただき、それがきっかけで委員会に入ったと思っています。

－ パワーポイントと配布資料で説明 －

※パワーポイント資料は本部からのもので、表紙に写る5人は当地区での学生とのこと。

米山記念奨学会は、米山梅吉氏の功績を記念して作ったものです。米山氏については「米山梅吉ものがたり」等、様々な本があり、私が三島の梅吉記念館で購入した本や、本部作成の「米山記念奨学会50年のあゆみ」等でよくわかります。

米山奨学会は、日本全国のロータリアンの寄付金を財源としています。特徴的なのは、日本で学ぶ外国人留学生に対して奨学金を支給していることと、米山氏を記念して作られたことです。一番の特徴は、カウンセラー制度があることです。米山奨学会は、1952年に東京ロータリークラブで構想が立てられ、現在では日本の全クラブの共同事業に発展し、1967年に財団法人となり、2012年に公益財団法人の許可を受け、2017年に50周年を迎えました。これまでに、129の国と地域から21,624人の学生を支援し、規模実績共に民間最大の国際事業となっています。今年度(2020学年度)の奨学生数は883名です。

米山奨学生の採用基準は、勉学への意欲、人物、学業、そして将来日本との懸け橋となりうる人物、ということが基準となっています。当地区の採用基準として、1. 応募者が一つの国に片寄らないようにしている。2. 優秀性と同時にロータリーに関心を示し、積極的にいろいろな活動に参加できる学生を選ぶ。3. 奨学期間が1年以上ある学生を選ぶ。ということがあります。2021学年度は13名。今年度は非常に多くて、27名の学生が当地区におります。そのうち17名が卒業予定ですので、次年度は23名の学生のお世話をすることになります。面接は、12月13日を予定しております。

当地区の前年度の特別寄付金の個人平均寄付額は、一人あたり18,541円で、ガバナー目標額が19,000円でしたのでだいたい到達した、というところ。全国では7位、なかなか頑張ったと思います。当地区の普通寄付金の平均は4千円、全国では5千円位でした。寄付の実績によって、地区への学生の割当ての人数が決まります。

次に卒業してからの学生を中心とする学友会についてお話しします。今、小林学友委員長が地区の学友会のお世話をしておりますが、学友会は、海外に9、

国内に33あります(ロータリー地区は34。北海道は2地区あるが学友会は1つ。)。国内の学友会の活動として、『2840地区 地域のお祭りでボランティア』『2750地区 カンボジアの小学校へ図書や文具の支援』『2660地区 ローターアクトと一緒に活動』『2790地区 親睦BBQ大会』等あります。海外では、台湾と韓国の学友会がそれぞれ、米山記念奨学会と同じように、日本人のそれぞれの国への留学生に奨学金を支給する活動をしています。当地区では、地区大会での研究発表や、学友の横の繋がりを強くしようということで一昨年フラダンスチームを作りました。また、研修旅行や、新年会では各国の料理を作って皆で楽しんでいます。2万人の学友の中で、ロータリアンになった方が239名、ガバナーになった方が3名おります。東日本大震災の時には、世界中の、そして日本の学友からいろいろな寄付をいただきました。

奨学生に関わる危機管理ということで、自然災害の折には、LINEを使って横の連絡が取れるようにしています。今年の台風の時も安否を確認いたしました。病気や事故に対して健康保険の加入、例会場に来る時の保険にも加入しております。また、ハラスメント等が起こらないよう、皆様注意していただければと思います。昨年からは業務委託覚書ということで、本部、地区、世話クラブの間で覚書を締結することになりました。

米山奨学生とは、卒業してからが本当のお付き合いだと思います。それには、学生の時にいかにお付き合いが出来るか、ということですので、日常生活で、どこかで会ったら声をかける、例会場ではなるべくお話しする、そういうことを積み重ねていただければありがたいと思います。日本に残る学生、自分の国に帰る学生、他の国に行く学生、将来、活躍する学生が沢山おります。そうした学生をほんの少しの寄付で支援出来ることを考えますと、ロータリー冥利につきる事業だと思います。是非、これからもご支援をお願いいたします。

